

## 経済学研究科

### 教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシー

#### 【教育目標】

創立以来、日本における経済学研究の発展を担ってきた経済学研究科は、その強みを活かし、また大阪大学の教育目標にしたがい、世界に通用する最先端の経済学や経営学を体系的に習得すること、専門知識を実践に応用する上で必要とされる人間社会あるいは自然界に関する幅広い教養を身につけること、さらには、未解決の問題に対して糸口を見つけ、解決までの道筋を自らのアイデアで作りに上げていくデザイン力を身につけることを目標に、体系的なカリキュラムと徹底した少人数教育の体制を整えています。経済学専攻と経営学系専攻から構成されます。

経済学専攻の博士前期課程には、経済学コース、応用経済コース、歴史コースの3コース、経営学系専攻には、経営研究コース、MOTコース、ビジネス・コース、グローバル・マネジメントコースの4コースがあり、学生のニーズに応じた多様なカリキュラムを用意しています。研究者と高度な知識をもった職業人の養成をめざしています。グローバル化の時代に対応できるよう、いくつかの科目は英語で行われます。

経済学専攻と経営学系専攻の両方に、博士前期課程で身につけた知識と思考力をさらに高めることを目的として、博士後期課程が用意されています。博士後期課程では、指導教員のもとで博士論文を作成していくこととなります。世界に通用する研究者の養成を主な目的としますが、職業人の知識の高度化もめざします。

#### 【ディプロマ・ポリシー】

経済学研究科は、大阪大学のディプロマ・ポリシーに則り、博士前期課程教育を通じて以下の基準を満たす学生に、修得した専門分野に応じて、修士（経済学）、修士（応用経済学）、または修士（経営学）の学位を授けます。

- (1) 世界に通用する経済学や経営学の先端知識を体系的に習得している
- (2) 論理的に思考する能力をもっている
- (3) 専門知識にもとづいて現実の経済・経営問題を理解する方法を習得している
- (4) 人間社会および自然界に関する高度な教養を身につけている
- (5) 未解決の問題に対して、解決までの道筋を自らのアイデアで作りに上げていくデザイン力を備えている
- (6) 自国の経済問題だけでなくグローバルな諸問題にも関心をもっている
- (7) 日本人および外国人と心を開いて対話するコミュニケーション能力がある
- (8) 自分の考えや意見を論理的に、そして説得力をもって話したり書いたりする能力を身につけている

また、博士後期課程教育を通じて、上記の基準を満たす能力をさらに高めることができた認められる学生、または同等の学力を確認することができた者に対して、博士（経済学）、博士（応用経済学）、または博士（経営学）の学位を授けます。

修士および博士の学位には、最先端の研究者として、あるいは高度な知識をもった職業人として、将来、大きな成果をあげてほしいという期待が込められています。

### 【カリキュラム・ポリシー】

大阪大学の研究科カリキュラム・ポリシーのもとに、経済学研究科では、教育目標にしたがった多様で体系的なカリキュラムを用意しています。

経済学専攻博士前期課程においては、経済学コースと応用経済コースではミクロ経済学、マクロ経済学、エコノメトリックス等、歴史コースでは経済史、経営史等、当該分野に必要な基礎知識を学んだ上で最先端の高度な専門知識の習得へと進み、得られた知識や思考法を用いて教員の指導のもとで学位論文や特定の課題についての研究を完成するという体系的なカリキュラムになっています。

経営学系専攻の博士前期課程も、多様で体系的なカリキュラムを提供しています。研究者養成を主目的とする経営研究コースでは、まず、それぞれの研究分野に必要な基礎知識を学習した上で、より専門的な知識や思考法を習得し、それらを用いて教員指導のもと学位論文を作成していくカリキュラムとなっており、特に教員の研究指導が重視されています。MOTコース、ビジネス・コース、グローバル・マネジメントコースでは、多様な人材を育てるために、基礎的な知識を学んだ上で、専門知識への習得へ進み、教員指導のもと学位論文や特定の課題についての研究を完成していく体系的なカリキュラムとなっています。博士前期課程の多くの科目では、試験、課題や報告の内容、参加の姿勢などによって総合的に評価され、学位論文や課題研究につながる研究指導では、報告や議論の内容などによって評価されます。

博士後期課程では、経済学専攻、経営学系専攻とも、指導教員のもとで学位論文を作成することに重点が置かれます。最先端の専門論文や専門書を読み、独創性のある研究成果を学会等で発表し、海外や国内の査読付き学術誌に論文を投稿し、学位論文の完成につなげていきます。博士後期課程の多くの科目や研究指導も、博士前期課程と同様の方法によって評価されます。

### 【アドミッション・ポリシー】

大阪大学のアドミッション・ポリシーのもと、経済学研究科は、世界最先端の経済学・経営学の知識を体系的に習得するための忍耐力と論理的思考能力、専門知識を実践に応用する上で必要とされる教養に対する旺盛な知的好奇心、未解決の問題に対して糸口を見つけ解決への道筋を自らのアイデアで作り上げていくデザイン力、さらには、英語力を含むコミュニケーション能力の素養をもった人材を求め、多様な方法によって選抜します。

- (1) 博士前期課程の選抜においては、経済学および経営学に関する知識、数学や統計学等の分析手法の習得度、そして英語力を筆記試験によって判定します。また、入学願書とともに提出される研究計画書にもとづいた口頭試問を行うことによって、志望する分野において必要とされる基礎的な能力を備えているか、修士論文作成に対する意欲と展望をもっているか、さらには、論理的思考能力、知的好奇心、デザイン力、そしてコミュニケーション能力をもっているか否かを判定します。
- (2) 博士後期課程については、最先端の知識をもった研究者の育成が中心となるため、選抜に際しては、博士前期課程で身に付けた知識や分析手法の習得度、論理的思考能力、研究成果を海外へ発信するための英語力について、口頭試問によって判定します。さらに、入学願書とともに提出される修士論文（あるいは、それに代わる研究論文）と研究計画書を評価することによって、博士論文作成に向けた研究テーマの学術的発展性と学生の研究遂行能力を判定します。